

## 第 622 回 新潟放送番組審議会 議事録

### — 議題 —

テレビ番組  
「新潟シティマラソン 2016」



平成 28 年 11 月 29 日

**BSN**新潟放送

## 第622回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成28年11月29日(火) 午前11:00～

2. 開催場所 新潟市中央区 新潟放送 本社6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	相羽利子	副委員長	古賀豊
委員	正道かほる	委員	小島良子
委員	佐藤元	委員	服部誠司

○委員側欠席者

委員	佐々木広介	委員	細田康
委員	高木言芳	委員	池田幸博

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	営業局長	斎藤和利
編成局長	島田好久	報制局長	太田志信
ラジオ本部長	高坂元己		

<説明員> 報道制作局情報センター テレビ制作担当 井上智美

事務局出席者

事務局長	増山由美子(広報部長)
事務局員	丹羽崇(社長室長)

4. 議題

1 報告事項

・12月の新番組・単発番組について(各局長)

2 審議番組 テレビ番組

「新潟シティマラソン2016」

(2016年10月10日(月祝) 14時55分～15時50分放送)

## 5. 議事の概要

各局長からの12月度番組報告に続いて、「新潟シティマラソン2016」について審議が行われた。

### ～番組審議委員の主な意見・質問～

- 通常のマラソン番組であれば特定のランナーに焦点を当てて、大会前後にどう取り組んだかを描くやり方が良くある。それは一般的で分かりやすく、一人を撮影すれば良いので楽であり、じっくり撮ることができる。しかし、今回はできるだけ多くの参加者・応援の方々を撮影していて興味深く、ボランティアの活動とともにゲストランナーの高橋尚子さんが参加者を励ます姿もとても印象深かった。また、撮影のポイントがたくさんある上に、空からの映像も使っていて、取材がとても大変だったと思う。インターネットでのライブ配信も行ったとのことで、今回のようなイベントでは今後、そうした形でも露出していくことになると感じた。
- 新潟市民にとって市民マラソンは知人や親族が出ているケースが多く、私の職場の関係者も出場していて、そういう目線で番組を見て、録画もした。多くの人たちの観点もマラソンを真剣に見るといふより家族が映っているかなどで、私も知っている顔をたくさん見ることができて嬉しかった。ゲストランナーの高橋さんはハイタッチでの笑顔にすごい力があって、元気をもらった。たくさんの方がボランティアに関わっていて、市民総がかりでマラソンが成り立っていることが非常に良く伝わった。マラソンを走る人の気持ちが分からないという方々にも、知っている顔が映ることで走る楽しさがダイレクトに伝わる番組だったと思う。
- これまでのマラソン番組はどちらかというと純粋に中継というスタイルだが、シティマラソンの番組は市民ランナーがエンジョイして走る様子をみせている。ゲストランナーとして高橋尚子さんと尾崎好美さんの二人と一緒に参加する大会は全国的にみてもほとんどないと思う。県外から大勢のランナーが新潟に来てくれて、新潟市民のおもてなしとボランティアによって素晴らしい大会になった。この番組はトップランナーではなくて市民の走る姿を家族や友人が見たいという作りになっている。毎年、BSNが色々と工夫して撮影していて、敬意を表する。
- 市民のお祭り、祭典として描かれていて、今回の番組が市民全員が主役というコンセプトであれば成功したと思う。友人や知人が映っているなら興味をもって見ると思うし、楽しい感じは伝わってきた。一方で、走ることに興味がない人には特段興味を引くものがなかったので番組を見続けることはできなかったと思う。高橋尚子さんに比べて尾崎好美さんの出演時間が短かったが、尾崎さんのレッスン風景を放送した際、雨の日はどうやって走れば良いかなどを紹介してくれたらお徳感が出たと思う。また、編集が大変だったと思うが、大会の翌日にすぐ放送したのは良かった。

- 競技中心の内容ではなく市民ランナー中心で感心したし、楽しませてもらった。同じような画面が続いて冗長に感じることもあり、もう少しメリハリをつけても良かった。また、高橋尚子さんの新潟への想いなどのインタビューを短くはさむだけでも、締まる気がした。1万2千人のランナーとボランティアが主役というコンセプトは十分理解できた。全国的なマラソンブームが実感できる映像になっていた。ただし、大会自体に縁がない人や走っていない人が選んで視聴するだろうか？関心の薄い層にも訴えていく手法が必要だと思う。番組内で個人成績が紹介されていない辛さはあったが難しく考えずに楽しめば良いと思った。シティマラソンは新潟を発信する大事な機会に育った。市民の息遣いを全面的に据えることで番組として応援する意気込みを大いに感じた。地域話題を地道に伝える姿勢をこれからも大切にしてほしい。
  
- 一人のトップランナーだけを伝えるのではなくて、従来のスポーツ番組のスタイルから脱却していた。県外の方々に対する新潟のおもてなしとボランティアなど、まさに地域振興を含めた様々なことを伝える番組で、非常に興味をもって見せて頂いた。

～ 報道制作局情報センター・テレビ制作担当・井上プロデューサーから ～

- 貴重なご意見をありがとうございました。テレビ番組では主役を作って追いかける方が感情移入しやすいが、今回は1万2千人が主役という大会のコンセプト通り、番組もより多くの方を撮影しようと挑戦した。今年はランナーだけでなく、支える人たちがいてこそその大会ということで、ボランティアや協賛企業を朝早くから大会終了まで取材して、翌日の放送につなげた。番組をみることで、知っている人が映っていて楽しめることもローカル番組の良さであり、ローカル局の使命であると思う。高橋尚子さんの描き方については事前に撮影したインタビューを間に挟めばよかった。マラソンに興味のない方にいかに興味をもってもらおうか、より工夫して番組を作っていきたい。